

# 電気自動車・再生可能エネルギー・SDGsを鉱物調達の視点から再検証する モニタリング・普及啓発・提言活動

活動地域  フィリピン、インドネシア、日本全域

ひろげる助成

3年目

調査研究

報告会での普及啓発数 **400人**

直接対話した  
関連企業の数 **7社**

今年度計画の達成度 **70%**

全体計画の達成度 **70%**



現地環境団体への水質検査方法の共有

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

潤沢な資金力のある鉱山開発事業者の影響力は大きく、コミュニティの分断が生じ、反対の声をあげる住民が不当逮捕や嫌がらせを受ける等、深刻な状況下での活動であった。

### ■工夫した点

現場調査・取材では関係者の安全に注意し、協力いただいた住民の意思確認にも細心の注意を払った。また、国内外の団体と協働して活動を行い、国際的な連帯の基盤を築いた。

## 課題

気候変動対策として電気自動車等の需要が急拡大するなか、その生産に必要なリチウム・ニッケルの鉱山開発計画が現地の環境や住民の暮らしを破壊する形で進んでいる。

## 目標

「責任ある鉱物採掘」が資源開発セクターの標準となり、気候変動対策等の切迫した問題に対しても十分な環境・人権配慮がされて採掘された鉱物が活用される状態を目指す。

## 活動内容と成果

- フィリピン、インドネシアで現地調査・取材を実施。また現地住民の声を伝える報告会を開催した。オンライン国際フォーラム「拡大し続けるニッケル鉱山で住民の生活は今～脱炭素技術の裏側で」の他、延べ12か所で報告を行い、関係企業やメディア、開発分野研究者を含む延べ400人超に対する発信を行った。また、キャンペーン動画「脱炭素技術の裏側でーリオツバ・ニッケル鉱山の拡張がもたらすもの」を制作し、オンライン配布を開始した
- 企業7社と直接対話を実施し、現地の環境破壊・人権侵害状況の共有と改善要求を行った



ソロワコ鉱山付近の湖で確認された土砂堆積

## 全助成期間の活動を振り返って

新型コロナウイルス禍により計画変更を余儀なくされ、活動の肝である現地調査をプロジェクト最終年に延期したことは活動の展開を難しくした。しかし、制約があるなかでも企業対話や普及啓発活動を着実に蓄積し、また最終年には現地調査とそれに基づく報告活動を行い、キーパーソンへの問題提起は十分にできたと評価している。



ボマラ付近河川の六価クロム汚染テスト結果

## 今後の展望

事態の改善には今後も活動を継続し、世論形成にむけた国際的な発信・提言活動を国内外の団体と協働しながら戦略的に展開していく必要がある。本助成活動を通してより関係が強固になった国内外の団体と連携し、国際的に協働して活動を継続展開することを目指す。

〒101-0063  
東京都千代田区神田淡路町1-7-11  
電話：03-5209-3455  
E-mail：office@parc-jp.org  
HP：http://www.parc-jp.org/

